

Q

19

## 新鮮胚移植の際の黄体補充療法はどのような目的で行うのでしょうか

A

体外受精の採卵周期では卵巣を刺激する薬剤を多量に使用するため、下垂体からの黄体化ホルモン(LH)の分泌が低下することや、採卵の際に顆粒膜細胞も吸引されてくることなどから、着床や妊娠の維持に重要なホルモンであるプロゲステロンが卵巣から分泌されにくくなります。

そのため、新鮮胚移植周期においては黄体補充療法としてプロゲステロン製剤を投与することが望ましいとされています。黄体補充のためのプロゲステロン製剤投与方法には内服、膣坐薬、筋肉注射などがあります。

多くの研究により、新鮮胚移植におけるプロゲステロン製剤の投与は妊娠率や妊娠維持率の改善に大きく貢献していることが示されています。

### 7章

生殖補助医療について

【参照生殖医療ガイドライン CQ】

CQ24：黄体補充は有効か？（新鮮胚移植） 新鮮胚移植における黄体補充は生殖補助医療の成績向上に有効か？